

姿をあらわす

1. クサグモの定位置（地図中①地点）

8月も盆を過ぎると、夜露が降りるようになり、朝、灌木や植え込みの表面で白く水滴のついたクモの網が目立ちます。降雨の後も同じです。

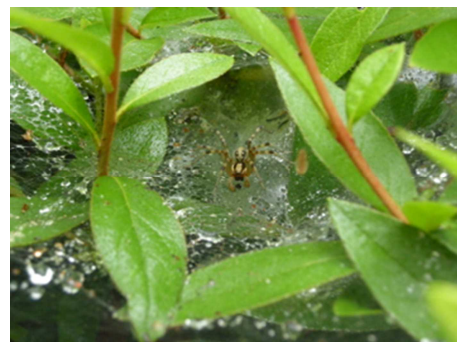
水平に糸が隙間なく張り巡らされマットのようになり、その上にまばらに不規則に縦や斜めの糸があります。棚網というタイプで、主はクサグモ、またはコクサグモです。棚の径が30 cmくらいだとクサグモ、15 cmくらいがコクサグモです。コクサグモは同じ場所にたくさんいるのが普通です。



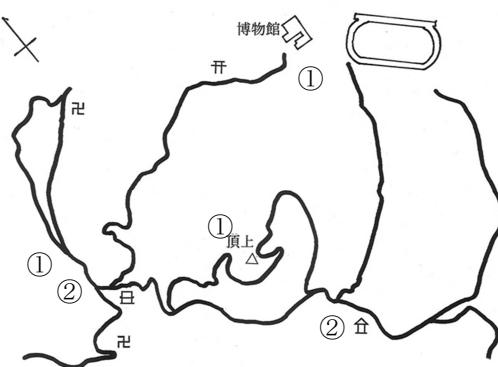
コクサグモ

この棚の一部には管状になった部分があり、枝の茂みの中につながっています。この管の出口に待機して、獲物が縦の糸に引っかかって棚に落ちるのを待っているのですが、驚くと管の内部に隠れてしまいます。

何分待ったら姿を見せるでしょうか。獲物を網にかけて捕えるところ、虫がかかったと思わせる手による棚の揺すり方、いろいろ観察する材料のあるクモです。



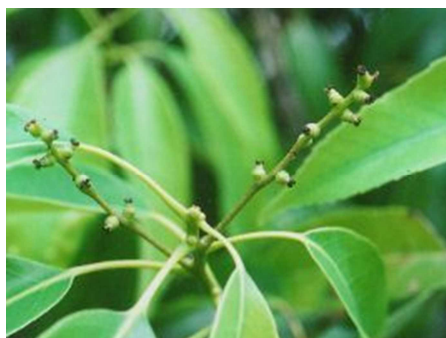
クサグモ



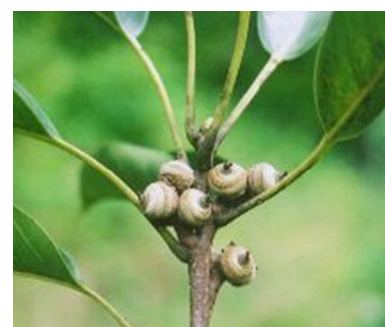
2. 殻斗の役目（地図中②地点）

殻斗（かくと）とは、ドングリの帽子のことです。蕾（つぼみ）を包んでいた鱗状の葉の癒着したものです。冬の芽ではたくさんの鱗片が重なって成長部分を寒さや乾燥から守っていますが、殻斗も同じ役目をしています。かたい果皮に包まれているドングリも、若い時期は昆虫や菌類からねられる存在です。この厚い殻斗を用意しても、穴を開けて卵を産み込むゾウムシや食い破って入り込むガの幼虫など、栄養豊富なドングリは危険が一杯です。

ドングリの先端の2つに分かれた部分は、めしべの先端です。6月



シラカシ雌花



アカガシ幼果

初めの受粉の後、殻斗が大きくなり、めしべの先だけ残して包み込んでしまいます。ドングリができあがるのが受粉の年、あるいは翌年の秋と種によってちがいますが、大量にでんぷんが集まって殻斗からドングリがはみ出すのは、8月末になってからです。ドングリが完成すると早く落下させてしまいます。温存していたエネルギーを一度に放出する感じで、これも大事な子孫を残す作戦です。

（倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2012）